

持続可能な森林経営研究会

<http://sfmw.net/>

森林施業の問題点等に関するアンケート調査

課題1 森林情報の把握、内容、取り扱いについての問題点と対応

遺産を捨てるような議論は関係者にとって難しいものの、現状で許される費用の中で制度を設計するからには、何を切り捨てるのかを明らかにすべきである。

例えば、森林区域の情報（林小班）のみを残して、その他の情報はないものとして、具体的にどんな支障があるのかを整理してみるべき。その議論の際、森林簿が「現在のようにならなってきた経緯」や「拡大造林において果たした役割」などがポイント。

なお、「誰が」の議論において、森林情報の把握及び市町村森林整備計画の運用について、過疎化等が進む山村地域の市町村に、これまで以上の役割を期待をしても現実的とはいえない。現状の仕事量以下で制度設計することが必要。

課題2 目標とされている森林施業のあり方に関する問題点と対応

短伐期施業からどのくらいのスピードで転換を図るのか、転換先の施業とはどんなものがあるのか等を示して、現場の混乱を少なくして、モザイク状に短伐期施業から徐々に転換していければいいのではないか。

また、仮に2050年頃までに施業を転換していくとした場合、その頃の日本の人口は8000万～9000万人程度と予測されており、転換した施業が「人口が減少した社会」において受け入れられるものでなければならない。

なお、人工林皆伐跡地の未植栽に関しては、「林業経営における自由度（皆伐後、何もしない自由）を確保すべき」といった意見が聞けないのは不思議。

課題3 森林計画の体系、内容等に関する問題点と対応

特になし。

課題4 森林計画の実行、森林施業の実行に関する問題点と対応

特になし。

課題5 その他（自由にご意見を）

持続可能な森林経営研究会での真剣な議論に触発され、よけいな事まで書いてしまいました。拙い思いつきの意見ですが、地方自治体職員の現場感覚をふくんでいる部分もあるかと思しますのでお許し下さい。